

令和2年度目黒区廃棄物減量等推進審議会における主な意見・要望について

意見・要望

1 めぐるはんどめいどエコバッグについて

- ・障がい者施設とコラボのオリジナルエコバッグを作製し、区役所から「SDG s」の大きな変革の波を起こすべきであると一般質問して実現した。さらに、さまざまな課と連携してSDG sの見える化の先頭に立って推進して欲しい。
- ・エコバッグについては、今後男性も使用できる様な考案を。保冷機能、スマホポケット等があると使い勝手が良い。
- ・エコバッグについては、いいことなので、もっとメディア等を利用して周知して欲しい。
- ・お店で食品等を引き渡す際に、店側が機械的に薄いプラスチック製袋にくるんでいる。これは折角レジ袋を廃止した意味を無にする行為である。また、スーパー等では、買った品物をマイバッグ等に詰めるための作業台脇に個包装内袋を置いているのは、レジ袋を減らした効果を相殺している。これを使用しないキャンペーンを考えるべき。店側も、機械的に使用することを即刻辞めるよう、区からも働きかけが必要。
- ・障がい者福祉と連携したエコバッグ作製は、良い取り組み。景品などで無償配布するよりも有償で購入してもらほうが、製作者にとって望ましい。また、購入者も無償でもらうよりも、実際に使用することになるだろう。
- ・今後も売れ行きが好調であれば、風呂敷など形を変えて続けていただきたい。また、「あったらいいな こういう〇〇」と使う側の意見交換もできる場や交流があると良いと思う。
- ・もう少し違うサイズも欲しい。(お弁当サイズは二つ分くらい入るように深くするなど)
- ・良い物を長く使うという観点でのエコバッグ利用推進の取組も必要かと思う。
- ・区役所のコンビニで扱っていることは知らなかった。扱っている旨をもう少し店の外に知らせるべき。エコチャレンジ顕彰は良いと思う。

2 めぐる買い物ルール参加店・食べきり協力店について

- ・とてもかわいい(協力店・めぐる食べきり)ステッカーなのに、あまり知られていないのが残念。拡大のために協力店になることのメリットがあるとよいかと思う。
- ・コンビニ大手のセブン-イレブンが参加することになったのは大きい。担当者の努力があったのだと思う。今後は、ファミリーマートやローソン等のコンビニ大手にも働きかけをして欲しい。
- ・区の努力で参加店・協力店が増えていることは嬉しいことだが、区民の認知度(買い物ルール参加店・食べきり協力店のあること)をもっと上げるキャンペーンを。
- ・セブン-イレブン加入は素晴らしい。店舗での協力に加え、ステッカー掲示による区民への広報に期待する。まだまだ一般店舗や区民の認知は十分とは言えない。商店街全体での取組をお願いする、SNSの活用、学校教育での教育題材利用などさらなる普及啓発をお願いしたい。
- ・登録している店舗について、地域に偏りがある。登録の少ないエリアについては引き続き広報強化を望む。
- ・「買い物ルール参加店」の登録は買い物をする人たちの意識を高めることが大切。その意識を広めるために何をするか?食べきりも同様。
- ・コンビニにも「めぐる食べきり協力店」のステッカーを貼ってあるのを見るが、貼っていないお店と何が違うのか、よく分からない人が多いのではないだろうか。「食品ロス削減に積極的に取り組むお店」として具体的に何をしているのか、一般区民に分かるようにできないか。
- ・セブン-イレブンが協力店として加わり、順調に進むように思えたがコロナ禍の状況が深刻になり始め「ごみを

減らそう」の必要性が意識の中から薄れていったように思う。

- ・幼稚園児など小さいときから環境学習を行ったほうがいい。特に、食べ物は自分が食べられるだけ小皿に取るなど無駄を出さないように。運動会のときに、資源とごみの分別競争があるとおもしろい。
- ・店のマップがあると良いと思う。

3 令和元年度目黒区のごみ量と資源回収量について

- ・コロナの巣ごもりにより、プラごみは10%以上アップとのこと。卵等、紙パックの物をなるべく買い入れている。
- ・ごみの排出は常に生活の結果であることから、令和2年度についてはコロナ感染の拡大による生活形態の変化がごみの排出状況に表れているはず。令和2年度のごみ排出状況についてはその特性をよく解析して来年度以降のごみ処理施策に反映させて欲しい。「コロナ禍ではやむを得ない」という気持ちでこれまでの分別・排出抑制の効果をつぶさないように区民への呼びかけを。令和2年度は組成分析調査ができなかったので詳細の解析ができないが、ごみ量が増えている内訳は、是非知りたい。コロナ禍の生活のなかで、ごみにどう対処するのかを考えることも大事。来年度はその点にも留意を。
- ・リサイクル率は23区の中では上位を保っていると思われるが、少しずつ減少していることは懸念される。令和2年度からコロナ禍の影響が出てくると思われるが、新聞雑誌販売の落ち込みだけで説明できるか、継続的に分析していくことが次の政策に活かされると思う。
- ・ごみの量は経済政策や景気などの影響を大きく受けることがよくわかった。しかし、影響を受けても、ごみ減量と資源回収が達成できる方法を海外の事例も参考にしながら考えていきたい。
- ・可燃ごみ、不燃ごみが増加した要因として外出自粛が挙げられているが、第1回目の緊急事態宣言が出されたのは4月7日なので、(その前の)3月末までにそれ程の影響があったとは考えにくい。断捨離の影響はあるかもしれない。経済には悪影響かもしれないが、消費をあおるコマーシャルをやめさせれば、ごみは減るのでは。
- ・水銀を含むものの分別回収やパソコン等の宅配回収も「ただのごみ」でなくなり、有効性が活き始めている。
- ・余分に購入しない、長く使える物を買うようにして使い捨てを減らす。分別は当たり前だが、まだまだ行き渡っていないか。
- ・リサイクル率の低下について、個々のデータを見ると、日頃回収日に出されているごみの量とやや実感が違う。可燃ごみは随分減ってきて、逆にプラごみが増えた。可燃ごみは週1でよいが、プラごみを週2にしたらという声もある。
- ・コロナ禍で古布類が回収されなくなり、今まで資源で出していたものが全て可燃ごみになるので、令和2年度はリサイクル率をもっと悪くなることが予想されるが、それに対する対策は何かあるのか。
- ・古紙のリサイクルで新聞が減っても、その他のメモ用紙なども古紙になることをもっとアピールすれば、少し増えるのではないかと思う。

4 令和3年度の新規事業について

事業名【エコテイクアウト推進補助事業】

- ・使い捨てプラスチックの使用がどれだけ地球に影響があるかという点から、お店に伝えて欲しい。(SDGsについて)
- ・消費者の意識の向上がないと、事業者も及び腰になりがち。その意味で区民への「なぜ必要なのか」のキャンペーンも欠かせない。
- ・コロナ禍でテイクアウトやデリバリーが大きく伸び、使い捨てプラ容器の使用は大きく増えることが予想され

る。プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律が今後施行されるなかで、「レジ袋を断る」というところから一步を進める取組だと思う。店舗と区民の双方の取組として補助事業と周知のための事業をあわせて実施し、効果を上げて頂きたい。

- ・現在、環境に配慮し、ストローや容器をプラスチックではないもので提供している事業者は含まれるのか。
 - ・コロナ禍でテイクアウトが賞賛され、プラスチック容器やスプーンが一段と生活の必需品となったように思われる。エコテイクアウトの補助金は良い考え。
 - ・コロナ禍で使い捨てプラスチックが増える以前に始めるべきだったが、今からでも推進して欲しい。事業者に対して、プラ削減のインセンティブとして良いと思うが、具体的にどのように周知して取り組むのか。
 - ・テレビで放映されていた「LOOP」(※)という事業は興味深かった。区でも本事業に1,000千円の予算がついたことは素晴らしい。プラスチックも問題なのはワンウェイ消費である。お店独自のプラ容器で販売し、次回その容器に詰め替える場合に(リユース食器の)容器代を補助する等も良いのではないかと。
- ※リユース容器を利用した商品提供プラットフォーム(化粧品や飲料などの容器を回収して再利用する事業)
- ・プラスチック製品は消費者より、販売側の問題になりつつあるので、脱プラ製品の促進を進めて欲しい。

4 令和3年度の新規事業について (続き)

事業名【「プラごみゼロ」クーポンキャンペーン】

- ・プラごみゼロに協力することで得する、というアピールをうまくして欲しい。
- ・いいキャンペーンだと思う。コンビニに関しては、ポイントカードのポイントになる方法も検討して欲しい。例えば、セブン-イレブンの「nanaco」など。
- ・コロナ禍で、衛生上の観点から店舗、区民双方とも実施しにくい面もあると思う。衛生上の工夫など情報提供もお願いしたい。また、飲食店だけではなく、食材の購入時にもリフィル容器の利用、量り売りなどの工夫が行われており、このような取組の支援も有効と思う。
- ・デリバリーのプラットフォーム事業者とも連携し、デリバリーとテイクアウトをしている飲食店には、目黒区クーポン券提供店という表示ができれば、(表示することで)プラごみゼロを促進することを加速できるのではないかと。
- ・プラスチック容器の削減につながると思うが、事務作業が大変。
- ・1時間のランチタイムにマイ容器に食品を選んで詰めて会計、職場に持ち帰って食事は時間的に難しい気もする。
- ・「今一番やらなければ」と思う。地球温暖化で災害の被害も大きい。このまま便利さを追求していくとどんなことになるか、各人に知らせることも大切と思う。
- ・プラごみゼロを目指すならば、エコテイクアウト推進補助事業という事業者に対するものと併せ、地球上にどれほどプラスチックがあふれかえっているか、危機的状況だという情報を区民にも広く知らせて欲しい。世界ではすでにプラ削減のために動き出しているが、あまりにも日本は出遅れている。
- ・クーポン券は少し面倒なような気がする。別の制度設計はないか。
- ・テイクアウトの容器再利用を促すのは良い。マイカップ持参も定着すると良いと思う。

4 令和3年度の新規事業について (続き)

事業名【プラスチック削減に関する普及啓発】

- ・お店をしていると忙しくてなかなか見る暇もないので、情報がしっかりと届くよう工夫をして欲しい。
- ・プラ削減の必要性(特に海洋汚染の問題など)を強くキャンペーンすることが必要だ。
- ・教育の現場で活かしていただきたい。
- ・化学繊維の糸で編んだ食器用スポンジはマイクロプラスチックを生む原因となっている。幅広いプラスチック問題を

取り上げながら、まずは身近なプラスチックを削減しましょうと普及啓発を図るべきと考える。

- ・販売の際に使用しているプラスチック品などが問題。これはメーカーと国が取り組むべき問題。
- ・プラスチックごみが引き起こす海洋汚染防止の第一歩は「ごみはごみ箱に捨てましょう」ではないのか。（日本の場合）ごみ箱に入れてちゃんと回収されたレジ袋は海を汚すはずはない。
- ・アニメーションは若い世代のみならず、内容が自然に入り込める。人気のキャラクターを登場させるのもおもしろい（一般にも注目される）。
- ・有識者は人選が大切。
- ・「元から断つ」という意味で、まず事業者に徹底的に広めて欲しい。消費者の段階で減らすのは限界がある。
- ・保育園、幼稚園、小・中学校の子どもを通じて広めて欲しい。

4 令和3年度の新規事業について（続き）

事業名【食品ロス削減推進事業】

- ・「SDG s」の環境問題と食品ロスをひもづけして推進して欲しい。
- ・コロナ禍で、食品ロスも増加すると思われる。フードドライブは言葉もやり方も認知が低いので、まずは広報が大事。区民の家庭内での調理・飲食でのロス削減も支援が必要だと思う。多くの食品で、パッケージよりも食品自体の方がより環境負荷が大きいことも知っていただきたい。
- ・消費期限や賞味期限間近のものであっても、食品の特性を考慮し、フードドライブでも取り扱うべき。賞味期限切れのものを売るスーパーもある時代になっている（大森にある）。
- ・買い残し、食べ残し、各々かかわる方々の意識を高めることが大切だが、その手段は如何に。
- ・専門家による講演会が有効かどうか不明。フードドライブに対する支援は力を入れて欲しい。
- ・必要な品物だけを購入し、まとめ買いをしないような生活習慣が少しずつ身に付き始めた矢先に、コロナ禍の外出自粛でまとめ買いをするようになり、真逆の状態に。最新情報の意見交換会や削減講演会にはぜひ出席したい。
- ・食べきり協力店が連携しての意見交換会の実施は大変良いと思うが、専門家による講演会は疑問。最新情報は区側が収集し、それを意見交換会に提供すればどうか。区民の意識向上・行動に区が力を添えていくことこそ大事。
- ・以前、食品ロス削減に関する討議の中で、ドギーバッグの話をさせていただいたが、その時は消費時間の問題で議論が進まなかった。足の早いものでなければ、食べきれないものは持ち帰る習慣があつて良いと思う。是非、再検討をお願いしたい。予算はそのための研究に充てていただきたい。
- ・小・中学校の給食の残が多いので、出張授業などで深刻さを訴えて欲しい。

5 目黒区一般廃棄物処理基本計画の進捗状況

- ・全ての施策の「SDG sの見える化」をして欲しい。
- ・イオンスタイル、東急ストア、セブン-イレブンでの連携推進では具体的にどのような内容だったか知りたい。プラスチック製袋（個包装内袋）削減対策のリーディングカンパニーになってもらいたいので、これらの事業者とは、ぜひその事業の推進を図るべき。
- ・できるところからで良いので、個別の施策の成果の指標化と目標値設定が望まれる。実施しただけでは、区民や区内事業者がどの程度行動し、ごみ減量やリサイクル率向上にどの程度効果があったのかは明確ではない。また、将来的には温暖化防止効果や経済効果などと結び付けた議論も必要だろう。
- ・10年計画が5年終わった令和元年度の実績から判断すると、令和7年に目標値に達するのは厳しいのではないかと考えられる。新型コロナの影響による生活スタイルの変化がどう影響してくるのか分からないが、ごみが減る方向に影響するとは考えにくいので、何か新たな発想が必要ではないか。

- ・現場のこの1年の実態がどうだったのか、実際に関わられている方からのお話を伺いたかった。
- ・ボタン電池などの回収場所を増やして欲しい。

6 目黒区災害廃棄物処理計画策定の進め方について

- ・いつ起きてもおかしくない災害。できる限り早急に進めて欲しい。
- ・激甚な災害が増える状況で、喫緊の課題と考える。他の被災自治体での例を参考にしつつ、目黒区独自の状況をよく勘案した計画策定を望む。
- ・計画策定の進め方について、区民意見としてパブコメを行うときに、文章以外にも絵やフローチャートを盛り込んだ「分かりやすい概要」をお示し頂きたい。

7 コロナ禍における資源・ごみの収集について

- ・コロナ禍の中、本当に収集作業している皆様には感謝。清掃事務所ではなく、区役所内の皆が見えるところに感謝のメッセージを展示して、その場でもメッセージが書けるようにして欲しい。
- ・ごみ収集の実態などについて、区民等に対して、区報等でこれまで以上の告知を。
- ・近年のごみ処理（収集・運搬・処理）は、ごみ削減（減量）・循環利用に力点が置かれていたが、コロナによるパンデミックは、ごみ処理の原点である衛生的処理を考える機会になった。現場のご苦労に敬意・感謝する。
- ・すでに適切に、柔軟に対応されていることは素晴らしい。区職員はもちろん、委託先従業員も含めて、安全衛生の徹底を図るようお願いしたい。温かい気持ちを持った区民の皆さんが多いことに感動した。
- ・清掃事務所職員の方々が感染のリスクにさらされないようごみの出し方の更なる周知、また出したごみでケガをしないよう、広報を徹底していただくよう望む。
- ・ごみの量はかなり増加した。びんや缶が特に増えたのは「家飲み」のせいかな。
- ・コロナ禍での現場の現状の説明をしていただきたい。

<情報提供> エコライフめぐろ推進協会が実施するフードドライブ常設窓口の設置について

- ・ずっと訴えてきたフードドライブ常設設置に感謝する。是非、「もったいない」を「ありがとう」に、とのキャッチフレーズで推進をお願いしたい。
- ・いい制度だと思う。広報誌、メディア等で積極的に周知して欲しい。「受付可能な食品の主な条件」に「2か月以上・・・」とあるが、もう少し条件を緩めることはできないものか。実施しながら、受付可能な条件を誰もが提供しやすいようにして欲しい。
- ・常設窓口の設置は大変良いことだと思う。受付可能な食品の条件として「賞味期限が2か月以上先」となっているが、消費期限ではないので、もう少し短くしても良いのでは、と思った。
- ・フードドライブ事業は一般的にNPO法人が運営している印象だったが、常設の窓口が近くにあることによって、身近な存在になり、少量の品物でも処分せずに持参するようになると思う。
- ・現在、会議がzoomになったり、中止が相次ぐ中で、区民への周知が徹底されないように思う。